

町の話題

PHOTO NEWS

この世界が平和になるように…

～平和記念式典への参列～



昨年8月6日(日)、平和記念公園(広島市)において平和記念式典が挙行政され、町から利根中学校生徒代表(6名)が参列しました。

式典当日は、広島市原爆死没者慰霊式ならびに平和祈念式が厳粛に挙行政されました。式典前日に、広島市に到着した参加者は、利根中学校の生徒が心を込めて折った千羽鶴を原爆の子の像に捧げ、平和を誓いました。

また、参加者は、被爆者の貴重な体験講話を聞くこともでき、中学生も核兵器の廃絶や、恒久平和の重要性について、認識を深めたことと思います。

なお、昨年10月21日には、利根中学校で凧明祭が開催され、広島平和記念式典に参加した生徒による報告会も行われました。今回、参列した生徒が書いた平和へのメッセージを紹介します。



千羽鶴に祈りを込めて!

平和へのメッセージ紹介

僕は核兵器に反対です。核兵器は全く関係のないものまで傷つけます。
今、世界ではたくさんの紛争や戦争が起こっています。宗教や文化の違いで起きているかもしれませんが、人間は互いに尊重し、互いに理解し合うことが出来るものです。だから僕は信じます。この世界から核兵器や武器、その他の悪いものが消える日が来ることを。
利根中学校3年2組 山本 竜也さん

今の広島をみると、本当にここに原爆が落ちたのかと思うほどとてもきれいな町でした。
でも、原爆の被害を受けた人たちの苦しみは永遠に消えないと思います。そんな思いを後の人たちに味合わせてはいけないと思うので、早くこの世界から核兵器がなくなっしてほしいです。
利根中学校3年2組 高岡 真衣さん

戦争はとても怖くて、する必要がないものです。だから、署名活動などがあつたら積極的に参加していきたいです。
また、第二次世界大戦など戦争のことを勉強して、より詳しくなって、平和の大切さをたくさんの人に伝えていきたいです。
そして、これからも毎日元気に、平和への思いを忘れず過ごしていきたいです。
利根中学校2年1組 居関 日依梨さん

今、世界では、まだ『核』とか『戦争』という話題が出ています。
でも、一人一人が喧嘩などで争うことを減らしていけば、大きな争いにはならないと思います。
だから、一人一人がその事を意識して生活していくべきだと思います。そして、その意識を世界に広げていけば、世界が平和になっていくと思います。
利根中学校2年1組 小野 颯太さん

平和の意味は、「おだやかで変わらないこと」、また「戦争がなくて世の中が安穏であること」です。今すぐ僕が戦争をなくすことは出来なくても、日々の日常を少しずつ穏やかには出来ると思います。そこから少しずつ「平和」に近づけていきたいです。
利根中学校2年2組 小針 陽さん

これからは、この原爆を落とされた8月6日のようにならないよう署名活動などに協力し、戦争をしない社会になってほしいなと思います。
もう一度平和式典に臨める機会があれば、参加したいです。
利根中学校1年3組 稲飯 美咲さん

この派遣事業は、戦争体験者が年々少なくなっていく中、戦争の現実、被爆の惨状などについて知り、戦争に対する認識を風化させることなく、次世代への継承を目的に実施されたものです。

日本ウェルネススポーツ大学野球場 オープニングセレモニーの開催!



昨年11月30日(木)、日本ウェルネススポーツ大学野球場において、全面人口芝改修工事の完了に伴う、オープニング

セレモニーが行われました。当日は、テープカットや、選手代表からの決意の言葉がありました。また、工藤監督は、「新たなこのグラウンドで、今まで以上の成績を残せるよう精進していきたい。」と話していました。

子どもの健やかな成長を祝う 布川神社七五三合同参拝の開催!



昨年11月12日(日)、布川神社において平成29年度布川神社七五三合同参拝(布川神社氏子主催)が行われ、子ども

たちの健やかな成長を祝いました。当日は、穏やかな秋晴れのもと丹精こめた色とりどりの菊の花が参拝者を迎え、子どもたちの成長を願い宮司さんより御祈禱を受けました。参拝後、皆で記念撮影を撮りました。

迫 力ある演奏に感動しっぱなし!



昨年11月18日(土)、利根町公民館において、利根町公民館秋のコンサート『角田健一ビッグバンド』が開催されました。

当日は、角田健一さんのトロンボーンのほかサクソフやトランペット、ドラムなどの迫力ある演奏が会場内に響き、観客約400名から盛大な拍手が送られました。鑑賞者からは、「生演奏は、迫力があってとてもよかったです。また、来年のコンサートも楽しみにしています。」と話していました。

利根町ヘルスマイトによる 高校生限定・食育教室が開催!



昨年11月18日(土)に町内に住む高校生を対象に食育教室を開催しました。将来、社会人になり自立していくために、まず「食べること」の大切さを知ることはとても重要です。講義では「朝食をしっかりと食べる」・「偏りなくバランスよく食べる」ことで、「健康」を維持できることを学びました。

また、参加した高校生からは「食事は少なめにしてお菓子を食べている」「普段のお弁当の量はもっと少ない」という声が聞かれ、普段の食生活を振り返る機会になったようです。



食文化の伝承の意味も含めて、鰹節からダシをとりみそ汁を作りました。具や味噌の分量は、グループごとに好みの味付けで作った後、塩分濃度測定を行うことで適切な塩分濃度について知ってもらいました。

からだ・心・くらし・環境に健康な1食 「3・1・2弁当箱法」

3:1:2 主食 主菜 副菜

©NPO法人 食生活学実践フォーラム

▲完成したお弁当!
調理実習では、高校生が普段食べる機会が多いお弁当を例に「3・1・2弁当法」を行いました。「3・1・2弁当法」とは、食べる人のからだに合ったサイズのお弁当箱に、主食・主菜・副菜を3・1・2の割合で詰めることで、適量で栄養素のバランスがよい食事が出来る方法です。お弁当箱に自ら詰めることで「1食に何を、どれだけ食べたらいいか」を学んでもらいました。

※利根町ヘルスマイトとは、「食」や「健康」について学び、各年齢に応じた「望ましい食習慣」や「食の大切さ」を、町民の方に伝えるボランティア団体です。